

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会 第7回

日時：平成29年 1月 7日（土）午後2時10分から5時20分まで

場所：多摩市役所 西会議室

出席者：（基本構想策定委員）柳田委員長、松本副委員長、常世田委員
鈴木委員、寺沢委員、尾中委員、千葉委員、
青木委員、辻山委員、大澤委員

（事務局）市長、教育長、福田教育部長、中島図書館長、笹原主査、
原田総務係長、阿部企画運営係長、藤田地域資料係長、栗崎サー
ビス係長、阿部関戸・東寺方図書館長、大田永山・聖ヶ丘図書館
長、福島主事
コンサルタント2名

○ 開会

委員長： 第7回多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会を開催する。
策定委員会の最終回となった。事務局のまとめた基本構想最終案が提出され
ている。ご議論いただきたい。

事務局：

【配布資料確認】

- ・資料1～5
- ・傍聴者の資料には、前回の議事録の概要版が追加。
- ・たま広報1月1日号（柳田委員長と市長の対談を掲載）

○ 報告

1. 図書館本館再構築市民フォーラムの実施結果について

事務局： 12月3日に開催された「図書館本館再構築市民フォーラム」について
（基調講演概要など、資料1の内容を報告）
会場での質疑と回答については、市のホームページで公開している。

2. 基本構想（原案）に対するパブリックコメントの募集結果について

事務局： 基本構想（原案）に対するパブリックコメントを12月3日から17日の15
日間で募集した。（応募状況等、資料2の内容を報告）

3. 基本構想策定までのスケジュールについて

事務局： (1) 本日の策定委員会で基本構想（原案修正版）を審議し「基本構想(案)」
を作成。
(2) 1月23日、図書館協議会に「基本構想(案)」を報告
(3) 教育委員会定例会で「基本構想(案)」を協議、2月下旬を目途に「基本構
想」として決定した後、庁内、議会、市民等の周知を図る予定。

○ 議事

事務局： 前回の策定委員会で「序章」を追加することとなり、事務局で作成したものを
委員の皆さまに確認していただいた。それをもってパブリックコメントをかけ

ている。本日はパブリックコメントを受けて、「基本構想(案)」をまとめていただく。

議事1～4の進め方について。議事1と2は事務局から説明する。それを受けて議事3で基本構想(案)についてご議論いただきたい。

本日の修正の議論について、足りないところは事務局と委員長に預からせていただくこととしたい。

1. パブリックコメントに対する見解について

事務局： パブリックコメントは事前に事務局で整理した。

- ・ 41名から受領、意見として分けると161件となった。
- ・ 概ね好意的に受けていただいた印象。主なものとして、「図書館全体のネットワークが大切」「ネットワークを支える中央図書館が必要」「新しいサービスは全体で取り組んで欲しい」「候補地へのアクセスの要望」「地域資料についてももう少し書き込みを」といった意見があった。
- ・ 基本計画に送られるべき意見もあった。
- ・ 策定委員会の掌握範囲を超える意見については、教育委員会・図書館から回答案をまとめたいと考えている。

今回は、策定委員会の掌握範囲のコメントに対してご意見をいただきたい。基本構想の章立てごとに意見をまとめ、回答の分掌について印をつけた。(まとめ方と主な意見、回答案について、資料3を説明)

2. 基本構想(原案修正版)の説明

事務局： 基本構想(原案修正版)として、パブリックコメントのご意見を受けて、修正や追記をしたところをまとめた。(資料4で、主な修正について説明)

3. 基本構想(案)の策定に向けて

委員長： 事務局から、論点について説明していただきたい。

事務局： パブリックコメントには、基本計画に送るところや策定委員会が掌握する範囲をこえるところはあるが、これは加えるべきだということは意見をいただきたい。記述を揃えるところなどは、事務局と委員長に一任していただきたい。

委員長： 全体の構成については、このまま進めたいと考えている。
パブリックコメントを整理していただいた。新たな気づきや意見があれば述べていただきたい。

委員長： 新しい中央図書館の立地条件について、今の候補地は公園の奥で、パルテノンとの合体等の意見もあったが、どういう受け止め方をするかだが、確かに、お年寄りや障がい者の方にとっては多摩センター駅からの距離はしんどいと思うが、その前に議論すべきことは、中央図書館とはどのようなかたちが最も理想的かということがあって、そのうえでアクセス面に問題があるようならどのように乗り越えられるか。考え方の順序として、アクセスに問題があるから、駅の近くにもっていかうではなく、図書館として一番理想を追求できる場所はここでいいのか。そこでいいならアクセスの面をどう解決していくのか。このような順序で考えるべきである。そのようなことが曖昧であると、理想的な図書館はできないと思う。私の意見は現在、構想を詰めている場所で建築計画を進めて、アクセスの問題はかなり重要なので、どのようにしたらそれを乗り越えられるのか。どのような経路、乗り物、例えば循環バス等、様々な打開策等

を突っ込んで検討する。それによって立地条件の問題点を乗り越える。こういう手順で考えるというような記述をもう少し基本構想の中に明確に書いた方がいいのではないか。そのところがまだ曖昧のように感じる。

ボランティア活動なり友の会なりの図書館への市民の協力というよりは、市民が図書館を自分たちのものにしていく、そういううえでは、とても重要な問題である。昔はボランティア活動というものは行政と一線を画していたが、最近、県やあるいは市町村の公民館なり複合施設に NPO 利用の部屋ができていく。そこで情報交換をしたり、人が集まったりしたり、行政との交流を密接にしたり、そういう NPO、NGO の活動と行政の一体化が非常に進んできている。図書館友の会というものは、古い形では、図書館をもちたててあげるとか、あるいは色々なお知らせや行事に協力したりとか、比較的控えめなものであったが、これからの新しい図書館のあり方としては、そういう市民活動が日常的に図書館運営と融合しているようなかたちにするために、図書館の中やあるいはそのような場所で、小部屋でもいいので、もちろん図書館なり、情報センターなりの範囲内で市民活動をより活性化するための市民と行政の融合を実現できる場としてあったらよいとパブリックコメントを読んでいて感じた。

委員：

私には既存地域の住民としての感覚があると思う。例えば、今回の図書館の場所は、私が子供の頃は、戦争ごっこをしたような場所で、非常によくわかる。そういったことからアクセスの面に関して、意見をいわせていただきたい。3-04 頁の(2)の3つめの○、「駅から敷地までの循環ミニバスの運行も期待されますが、今後の工夫要素です。」という記述があるがもう少し強く位置づけてもらいたい。「ミニバスの運行も期待されます。」ぐらいでとめておいていただきたい。「今後の工夫要素です。」というのは切ってしまうのではないかな。

既存地域の住民への配慮という点では、2-06 頁の⑤のふるさと多摩市の記憶装置というのがあるが、この辺りに、今までの多摩市が歩んできたことについての様々な本等もでていっているので、意識的にもう少し、文章はそのままでもいいが、内容的に配慮が必要なのではないか。パブリックコメントをみると、割合に既存地域の住民の方の意見が少ないのではないかと感じた。そのような点からも、配慮いただければと思う。

これは一種の感想だが、ネットワークという形で、中央図書館を中心とした、地域図書館の重要性が相当はっきりとした形で書かれたが、これはパブリックコメントも含めて、非常に大事な視点であると思いますし、それを維持していくことの大事さもあると思う。これについては、是非、堅持していただきたい。

委員：

パブリックコメントを読んでいて気がついたことで、中島館長が今回のトリトリー外といった項目ではあるが、郷土資料館みたいなものをつくってはどうかというようなパブリックコメントがあり気になっていた。パルテノンの中の学芸員の方たちがいらっしゃって、郷土資料館というものは少し違う、多摩ニュータウンの開発の歴史の展示をしているが、パルテノンの方でも地域の郷土資料館的な要素をつくってもいいのではないかなという意見があったが、なるべく、パルテノン多摩の学芸員の方と図書館や教育委員会の学芸員の方が協力し合って、つみあげをするというか、資料もパルテノン多摩も莫大なので、そのようなことも含めて、本当は一緒にした方がいいのかなと思うが、行政的な課題もあると思うので、少なくともタグを組めるようにして郷土資料館的なものをつくってもいいのかなと思った。

委員長：

大変大事な問題だと思う。地方を歩いていると、自治体によっては、自分たちがどのようなまちで生まれたのかとか、そこで誇るべきものはなんなのかというようなことを過剰なぐらい取り組んでいる教育委員会などもある。多摩市

の場合は、郷土資源産出みたいなものはないが、もうそろそろ、ニュータウン建設から年月もたっているので、そういう取組みを図書館の新しいかたちでつくるのと並行して、強化していく必要があるのではないか。今のうちに資料をきちっとおさえておくのと同時に、『第一次多摩市史』みたいなものができてよいのではないか。多摩市の子供たちが育っていく中で、単なるベッドタウン的な意識だけではなくて、この地域の特徴なり、どういう情報環境なり、歴史なりで生まれ育ってきたのかを知る必要があり、そのようなことも考えながら、郷土史なり、地域の情報収集なりを基本構想のなかでもしっかりと位置づけた方がよいのではないかと思った。

副委員長：

1-07 頁の(3)、最後の文章、「これらの状態（多様な資料に1箇所アクセスできないという）の改善が最大の多摩市立図書館の課題であり、中央図書館整備の必要性と意義がここにありますが。」の部分に最大とあるが、重要ではあるが、最大ではないかなと思いますので、「最大」を削除したほうがよいのではないかと思う。

2-06 頁の⑤、ふるさと多摩市の記憶装置の修正部分、「新旧住民みんなの『ふるさと多摩市の記憶装置』であり、『情報発信基地』でもあります。」は、文章自体はいいが、「ふるさと多摩市の」が「記憶装置」と「情報発信基地」の両方にかかった方がよいのではないか。記憶装置と情報発信基地に「」をつけたほうが、ふるさと多摩市の部分が明確になるのではないか。

2-10 頁の修正文章の3つ目の趣旨は、地域館に対して、しっかりとサポートしていくということや地域館も一緒に発展していくんだという趣旨で書いているとしたら、この文章だと2つの読み方ができてしまい、適切ではないように感じる。なにが悪いかというと、2つ目の・の「本館整備に合わせて、順次見直しや改変が必要になるかもしれません」が縮小していくように読み取れなくもないかなと思う。パブリックコメントを活かすのであれば、「充実」、「洗練」といったような言葉を「順次見直しや改変」といった言葉の代わりに入れる。あるいは本棚配置を「集約する」ではなく「工夫する」といった言葉にした方がよいのではないか。

3-06 頁の外国人の利用に関する文章が新たに加わっているが、対象を外国人に絞るのは狭いと思う。例えば、国籍は日本だが、アイデンティティは違っていたり、あるいは文化的なアイデンティティは違うなども含めて捉えたほうがよいのではないか。例えばの文章だと、「文化的背景が多様な利用者を想定し、外国語資料（絵本）や日本語習得資料、生活リテラシーなど多文化サービスに取り組みます。」のようにする。また、外国人の方だけにサービスするのではなく、私たちが多様な文化を理解するといったような資料を提供することも重要だというような文章も入れた方がよいのではないか。

地域資料に関しては、4-02 頁の③のところ、地域資料と行政資料をしっかりと収集していくとはっきりと明記したほうがよいと思う。オープンデータの話も、これからのことを考えると、地域のオープンデータのアーカイブであったり、オープンデータを自分たちでつくっていくなど、オープンデータの創造を支援していくことも、地域資料のひとつの役割としてあってもいいのかと思う。

4-04 頁の⑤、人件費の縮減については避けては通れないかもしれないが、色々和智慧をしばるといってもいいのかと思う。例えば、ICTの積極的活用などで貸出や返却を効率化したり、地域の方たちとの協働といったかたちなど。少し、方向性をはっきりと書きすぎの印象がある。ここは「地域の人達と智慧を出し合って、考えていく」ぐらいでとどめておいたほうがよいように感じる。

委員：

地域館のことで、パブリックコメントのなかでは、地域館が存続にはなった

が、機能などが縮小されるのではないかという不安が述べられている意見もあった。パブリックコメントの記録の7頁、4、5の意見には地域館の縮小等に関する不安の意見があったが、基本構想策定委員会では、地域館の縮小に関する議論はしていなく、縮小していくことは考えていないという策定委員会の見解をいれるべきではないか。

「基本構想原案修正版」2-10頁、修正文章の2つ目の3つめの・、「地域館拠点館には、貸出し、子どもを大切にする奉仕、相談業務、地域社会連携があり、これら全領域の業務を少人数で対応する必要があります。」とあるが、地域館の職員が減らされるのではないか、中央館に集約されるのではないかという不安がパブリックコメントにもありましたし、「少人数」という部分を少人数であっても、精鋭でやっていくというような言葉が必要ではないか。

委員：

中央館の候補地についてだが、現在の候補地を前提に議論をしているのは承知しているが、そうであるならば、アクセスの問題は重要だと思う。パブリックコメントの中にも、危惧する意見はたくさんあり、せっかく素晴らしい機能の新しい図書館ができて、自分たちには日常的に使えないのではないか、という思いが散見される。基本計画での議論になるのかもしれないが、真剣に考えなくてはならないと思う。調布や浦安などの平らな地域とは条件がかなり異なる。歩けばいいという問題ではなくなるというように心配している。魅力的なものさえつくれば、だれでも来るのか。そこにはもうひとつ思い切った工夫が必要で、私は以前から、マンガ的な発想を持っている。多摩センター駅から中央公園までゴンドラをかける。緑を下に見ながら、図書館にアクセスできる、どこにも無いような図書館ができれば、面白いのではないか。多分却下されるではあろうが、高低差があり、真剣に考えるべきだ。ミニバスなり、駅から直接アクセスできる工夫が必要。

今の本館の敷地に私立学校が開校したときに、取付道路に今以上に車両が入ってくるのが想定される。図書館・学校の双方に不安がないように、今後十分検討してほしい。

郷土資料展示について重要な指摘があったが、それ以外にも生涯学習（公民館）の機能を図書館と一緒にできたら、新しい学びの場となると思う。

委員：

3-05頁（5）にラーニングコモンズやグループワークといった言葉があるが、「自習スペース」という言葉もあれば、若者が集まれるという印象になるのではないか。

3-06頁（1）3、マルチメディアの項目で「音声映像以外のAVやCD」というところ、わかりにくく感じる。

半年間委員会に参加しているが、基本構想が策定されていることを知らない人が多い。図書館に興味を持ってもらえるよう、広報の必要性を感じている。

委員：

0-02頁の構想立案までの経緯は良くまとめていただいているが、具体的なことがわかりにくい。策定委員会の掌握範囲外のことかもしれないが、この三年間の出来事は非常に大きかったと思う。行動プログラムが出されて、地域館4館の廃止ということが提案された。それに対して市民から反対する運動が起こった。多摩市の図書館にとっても大きな出来事だと思う。市民にとってもこの経験は宝にすることだと思う。きちんと記録して、図書館づくりに活かしたい。

0-02頁3段落目の記述に「それぞれの地域館に利用者友の会が生まれるなどの地域図書館と市民が向き合い支えあう運営の常態は育ちませんでした」とあるがそのようなことだから3館構想になったのか、とも読み取れる。経緯の総括がされていないと「知の地域づくり」の力にならないと思う。

委員長：

今の意見は大切。経緯というのは行政の立場だけでなく、市民の活動や状況を踏まえるべきだろう。検討したい。

- 委員： 公共施設の見直しに絡んで地域館廃止構想が持ち上がった時に、私もなぜ地域館が対象になったか理解できずにいた。辻山委員が言われたように、市民の反対運動の経緯の事実を書いておいて良いと思う。
- 様々な経緯があり、市民が地域館廃止を止めたいと立ち上がって現在の状況になっている。「隣に図書館がある幸福」は施設が古くならうが変わらない。地域館廃止反対運動について、客観的な記述があって良いと思う。
- ただ、中央図書館と地域館・拠点館のありかたについては、中央図書館の機能とあわせて、今後どうしていくか、議論は避けられないと思う。
- 委員長： 基本構想全体のトーンとして、地域館について考えるのはこれから、ということになっているが、2-05 頁で地域図書館が位置づけされている。拠点館や地域館が「知の地域創造」を根付かせるために大切な役割を担う、というニュアンスがどこかに必要だと考える。
- 細かな表現のことになるが、3-02 頁「子どもたちにとっての『愉快的な広場』」について、パブリックコメントの回答案も難しいものになっている。図書館は「知的な広場」であってアミューズメントではないし「愉快」という言葉はあてはまらない。「楽しみ」程度かと思うが、もうすこし検討したい。
- 委員： 多摩市の図書館は他市に比べて利用率が高い。リクエストやレファレンスなど一定のレベルでサービスが提供できているので、3-06 頁にあるようなことは大切だが既にできている項目で、ハードユーザーには新しいサービスとは言えない。パブリックコメントにもあったが、現状のサービスへの満足度は高いと思われる。
- 高いレベルのサービスを維持している多摩市の図書館で、次に何をすれば良いかということをお話ししてきたが、50%の図書館を使っていない人へ向けたサービスだろう。図書館を使っていない人に理由を聞くと忙しいからという回答が多いが、忙しい人でもどうしても行きたくなるような図書館が多摩市のめざす図書館になるのではないか。
- 普通のまちの図書館なら十分な基本構想だと思うが、医者に例えると今の図書館は「街の医者」で新しい図書館は「大学病院」。専門的な検査が受けられて高度な医療が提供されるので忙しい人でも行かざるを得ない、というようなイメージ。3-07 頁にもう少し書き込めると良いと思う。そういった新しい図書館のイメージがないので、地域館存続に関心が傾くのかなと思う。
- 委員長： 図書館を医者に例える表現はわかりやすい。高度先端医療だけが重要ではないが、3-07 頁の書き方が大切だと思う。記述について、常世田委員と事務局で相談していただきたい。
- 委員： 3-06 頁は、時代が求める新しいサービスとされている。策定委員会で緑陰読書などのいろんな提案があったが、埋没している。見出しのような表現を考えたい。
- 委員長： 見出しで言うなら、3-07 頁(5)は「時代が求める新しいサービス」ではない。これは世代別に求められる多様なニーズに応えるといったことではないか。表現を検討したい。
- 友の会・ボランティア、行政と市民の協働など明確でない言葉づかいがある。これについても検討したい。
- 委員： 3-02 頁(2)①「子どもたちにとっての『愉快的ひろば』」の「愉快」について。子どもたちが図書館に何を求めて来るのか考えたときに、新しい発見や出会いを求めて「わくわくする」というようなことかと思う。子どもたちにとっての「わくわくするひろば」としてはどうか。
- 委員長： 「わくわく」を候補の一つにしてはどうかと思う。
- 余談になるが、荒川区で新設された汐入東小学校の学校図書館は、硝子張りの図書室で本が呼び掛けるような情景になっている。80人分の座席があり、

いつも本を読んでいる子どもがいる。司書が月替わりの展示を行っている。保健室に行く子どもがいなくなったとも聞いている。わくわくする、というのはそんなことかと思う。

子どもと大人の空間、音響の住み分けの記載がどこかにあるか。調整できるように考えたい。視察の際、地域館で起きている問題を聞いた。子どもが思いきり楽しめるようなお話室などの場所と静かなスペースの区分けについて成文化しておきたい。また、中央公園との繋がりで緑陰読書ができる環境整備のようなことも書いておきたい。

様々な意見が出て、事務局は整理が大変だと思うが、個別に委員の意見を求めても良いと考える。まとめの作業を進めていただきたい。

事務局： 基本構想概要版（案）を作成してみました（資料5）。

基本構想自体の修正があるので、推移に合わせて、委員長にご確認いただいて、まとめていきたいと考えている。

委員長： 概要版は基本構想を一枚にまとめて俯瞰できるものということですね。基本構想の変更にあわせて概要版も変わってくるので、作業をお願いしたい。

委員長： 「はじめに」と「あとがき」について。

「まえがき」を行政が書くとその立場の言葉になってしまうことが多い。諮問機関から基本構想を出すということで、委員長が書いて、それを行政にお渡しするという形にすべきかと思う。市民フォーラムの基調講演の要点録ではどうかという提案が事務局からあったが、長すぎるので縮小するなど検討したい。

「あとがき」は、策定委員会として今後の計画に引き継ぐニュアンスを書くべきかと思う。常世田委員にお願いしたいと思う。

教育長： 予定の議事は全て終了しました。内容の濃い議論をしていただきありがとうございました。

6月から7回にわたり策定委員会を行ってきた。特に柳田委員長には執筆活動のお忙しいなか委員長職を務めていただき、市民フォーラムでも講演していただくなど感謝申し上げます。学識経験者、市民代表からの委員の皆さまにもご尽力に感謝しております。ヒアリングやパブリックコメントの募集には、多くの市民にたくさんのご意見いただき、多摩市の図書館に寄せる思いを改めて感じている。本委員会を熱心に傍聴いただいた皆様にも感謝申し上げます。今後とも多摩市の新たな本館の再構築に向けての取り組みにご支援をいただければと思います。

今年は酉年、鶏の鳴き声は、太陽を呼び覚ますとも言われています。図書館にとっても明るい年になれば。「知の地域創造」と多摩市ならではの図書館、将来を見据えて進めて行きたいと考えています。

市長： お忙しいところ、策定委員会にご尽力いただき、ありがとうございました。

たま広報の記事について、各所で話題になっている。柳田委員長との対談で内容はこの策定委員会で議論していただいたことだった。地方創生というと経済再生に傾いているが、知的再生という大切な部分を多摩市が担う。「知の地域創造」センターでは一人一人が自分自身のドラマを実現し、また子どもや後世に受け継ぐことが必要だと、対談の中で改めて感じた。

今日は傍聴の方もたくさん来られている。辻山委員の意見にもあったが、地域図書館の問題があった。国全体として人口が減って高齢化していく中で、地方自治のあり方が問われている。ポピュリズムということではなくて、私達が住んでいる地域を見つめ直していくことが必要。一方で世間で起きていることとは無縁ではないので、舵取りを誤らぬよう「知の地域創造」センターを光にして進めていきたい。市民が主役の街。基本構想をいただいて、今後の基本計画につなげて行きたい。